

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

07

2016 Jul.

vol.103

【特集】 Campus Life

学生生活はグローバル! 多国籍な学生が暮らす ドミトリーを紹介

Front Runner

「こころとからだの発達から他者理解の発達過程を探る」

大学院人間環境学研究院 准教授 實藤 和佳子



歴史散策

KYUDAI HISTORY STROLL

11

九州帝国大学 工科大学理科教室(第四分館)

工科大学の理科教室は、1913(大正2)年3月に竣工し、1960年代まで物理を学ぶ多くの学生が利用した。煉瓦造2階建て、ちょうど逆T字のような平面構成をしている。戦前期まではこの建物の隣までがグラウンドで、1階が理学、2階部分が化学教室として使用された。

物理学者のアインシュタインが本学を訪れた際、この教室の玄関で記念写真を撮ったことは有名だが、その位置は現在の旧応用化学教室棟の向かい側、工学部3号館前歩道の記念講堂寄り部分に相当する。箱崎キャンパスの辻々には多くの出来事が積み重ねられており、これからのまちづくりに活かせることも多い。

(百年史編集室 助教 市原 猛志)



九州帝国大学工科大学理科教室(1916年)

目次

28	25	23	19	18	17	16	15	11	07	03	02
●九州大学同窓会連合会総会 ●第4回熊本同窓会 ●経済学部同窓会全国・関西支部合同総会 ●東京九機合総会・懇親会 ●在京親和会総会 ●歯学部同窓会福岡支部定例総会・懇親会	九州大学基金 22 平成28年熊本地震 被災学生等支援のための募金活動	●火山人材育成が急務の日本 ●小惑星に「王貞治」と命名！	Close up 受賞のお知らせ KYUDAI TOPICS	学位記授与式・入学式 KYUDAI SPECIAL TOPICS	MUSEUM REPORT	留学生体験記	世界のキャンパス	記者会見レポート	Front Runner 大学院人間環境学研究院 准教授 實藤 和佳子	【特集】Campus Life 学生生活はグローバル！ 多国籍な学生が暮らすドミトリイを紹介	113番元素 パブリックレビュー開始！

表紙について

新緑が鮮やかに芽吹く理学部エリア。ここには学生の生活をサポートする施設「ビッグリーフ」があります。

1階「GARDEN KITCHEN」は220席の広々とした飲食スペース。2階「キャンパスライフサポート窓口」では家探しや自動車免許取得、旅行など学生生活がより充実したものとなるようお手伝いをしています。

この場所へ来ると、「日の光を浴びた木々が枝を伸ばし大きな葉をつけるように、学生たちにもたっぷりと栄養を吸収して、いきいきと成長してほしい」そんな想いが伝わってくるようです。

■編集・発行：九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744

■TEL:092-802-2130 ■FAX:092-802-2139

■E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

■Webサイト:http://www.kyushu-u.ac.jp/

■印刷:株式会社ミドリ印刷 ■編集協力・取材:株式会社チカラ

■撮影:岡本正人、加来和博、中西ゆき乃、平川雄一郎、近藤宏一郎

■デザイン:才原貴生 (Office Chameleon)

◎お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。

◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。

◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。

◎次号は、2016年10月発行予定です。



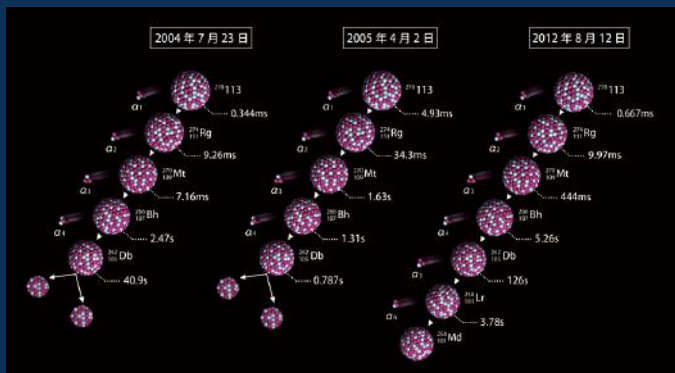
元素名案「nihonium(ニホニウム)」 元素記号案「Nh」

馳浩文部科学大臣(中央) 豊田真由子文部科学大臣政務官(右)と森田浩介教授(左)

113番元素 パブリックレビュー開始!

大学院理学研究部物理学科教授兼国立研究開発法人理化学研究所仁科加速器研究センターグループディレクターである森田浩介教授を中心とする研究グループが、国際純正・応用化学連合(IUPAC)へ3月18日に提出した113番元素の元素名案および元素記号案について、米国東部時間6月8日9時30分(日本時間…6月8日22時30分)、IUPACによるパブリックレビューが開始されました。元素名案は「nihonium」、元素記号案は「Nh」を提案しました。

パブリックレビューは5カ月間行われます。その後、IUPACから正式な元素名と元素記号が発表されます。



3例の崩壊連鎖

【特集】

Campus Life

留学生数 全国立大学で第2位! (独立行政法人日本学生支援機構調べ 2015年5月1日現在)

学生生活はグローバル!

多国籍な学生が暮らすドミトリーを紹介

—学生たちが暮らす国際寮で普段の生活について聞いてみました—



単 玉潔さん
ゼン ギョクケツ
中国(北京)
芸術工学部・KUFS A



姜 ミン志さん
カン ミンジ
韓国(ソウル)
教育学部・KUIFA



小田 野々花さん
オダ ノノカ
日本
文学部・ヨット部マネージャー



吉村 薫さん
ヨシムラ カオル
日本
理学部・ラクロス部



食事や家事から感じる文化の違い

留学生とのルームシェアは

大学時代にしかできない経験です

——まずは、九州大学を選んだ理由を教えてください。

単：さまざまな学部で学生と交流ができる総合大学なので九州大学に進学を決めました。入学してみると、留学生の人数が多く、グローバル化している大学だと実感しています。また、留学生へのサポートシステムが充実しているのが嬉しいです。

——単さんは入学前に京都で一年半日本語の勉強をしていたそうですね。

単：はい。事前に日本語を勉強しないと入学することが難しかったので、まずは日本語学校で勉強して、九大の私費留学生の試験を受けました。

姜：私は入学前に、韓国で3年間日本語の勉強をしていました。その後、韓国国内で受けた日本留学試験に通り、私費留学

生の試験を受験したんです。

——欧米ではなく日本に留学しようと思ったのはなぜですか。

姜：小学生の時に日本人をホームステイで受け入れた経験があり、それがきっかけで日本の文化に関心を持つようになりました。また、兄も日本に留学していたので「留学は日本へ」と自然と考えるようになりました。

——どうしてドミトリーを選んだのでしょうか。

姜：二人暮らしは寂しいし、日本人の友達をたくさん作りたくて。ドミトリー3は日本人2人、留学生2人の共同生活なので、日本人と知り合う良い機会になります。

単：私は、せっかく日本にいるのだから日本人とたくさん交流をしたいと思ったので入居しました。一緒に住まないと、日本の

文化を深く体験することはできませんから。

——では、日本人の2人がドミトリーを選んだのは。

小田：大学時代に、ほかの人にはない経験がしたかったからです。もともと外国に興味があり、留学を考えていたので、異文化交流ができるドミトリーに惹かれました。それに、安かったんです(笑)。

全員：本当に助かります(笑)。

吉村：外国の方と一緒に生活する経験は大学でしかできないと思います、入居を決めました。

——日々の生活で国や文化の違いを感じた場面はありますか。

単：皿洗いやゴミ捨て：家事一つをとってみても、それぞれのお国柄が出ていて驚いてしまいました。日本人にも韓国人にもカルチャーギャップを感じる場面が多々ありました。習慣の違いは一緒に住んだからこそわかることです。

多々ありました。習慣の違いは一緒に住んだからこそわかることです。

小田：料理の味つけが日本よりも濃いのにびつくりしました。留学生の2人が使う調味料は本格的。見たことがない食材を使っていることもあります。

——食事は文化の違いを一番感じますよね。留学生の2人は、日本の食べ物は口に合いますか。

姜：納豆は、最初は苦手でしたが今は大好きになりました。

単：私も納豆は大好きです。でも、梅干しは今でも苦手です。中国や韓国には、そんなにすっぱい食べ物がないんです。また、生のタコやイカを食べていることに驚きました。

吉村：中国や韓国では生卵を食べないの聞いてはいましたが、卵かけごはんを食べていると本当に驚かれました。

——よく料理もしているそうですね。自国の料理を作って振る舞うこともあるのですか。

単：はい、よく作ります。先日、中国のお菓子をみんなに紹介しました。祖母から習った料理で、紫芋をこして揚げるお菓子です。

姜・小田・吉村：すごくおいしかったですよ。

——共同生活で不便な点はありませんか。

小田：住む前はきつとストレスがたまるだろうと思っていたのですが、思ったよりもストレスを感じません。留学生の2人が流ちょうに日本語を話せるのも理由の一つだと思います。

帰ったらみんなが「おかえり」と言ってくれるのがとてもうれしいです。



課題協学科目や基幹教育セミナーが面白い 互いの国に対する理解も深まりました

——では、大学生活について教えてください。皆さんは九州大学独自のプログラムである基幹教育を受けていると思います。どう感じましたか。

姜…課題協学科目が面白いです。授業では、文系と理系の混成グループをつくり、課題を一緒に解いていきます。私は文系です

が、理系の学生とも一緒に議論できるので、普段とは違う視点を知ることができ刺激的です。友達もできました。また、基幹教育セミナーでは、発表の仕方やパワーポイントの使い方を身につけることができました。

吉村…セミナーではほかの学生の将来像を聞く機会があり、さ

まざまな考えを知ることができます。

小田…基幹教育で私が一番面白いと思った授業は「日本事情」です。クラスには日本人と留学生が同人数いて、6、7人のグループでコミュニケーションをとりながら異文化間の理解を深めていきます。毎回テーマが違い、授業が進むと1時間外で遊ぶプログラムもあり、鬼ごっこなどそれぞれの国の遊びをしました。終盤は、お互いの国の聞きにくいことを尋ねる回もありました。「韓

また、私は文学部なのですが、数学の授業を受講することができました。途中で哲学や歴史の話になることもあり、数学と哲学の結びつきが興味深かったです。文系の授業だけでは気づけない発見でした。

——ところで、皆さんはサークルには入っていますか。

姜…私はK U F A※1に所属しています。留学生と日本人の親善会で、料理を一緒に作ったり、キャンプに行ったりして異文化交流をしています。

単…私はK U F S A※2に参加しています。K U F S AはK U I F Aとは違い、外国人だけの留学生会です。スポーツ大会やタレントショーがあり、大分へ温泉旅行にも行きました。

吉村…小田さんはヨット部のマネージャーで、私はラクロス部に入っています。週4日、午後5時から7時半くらいまで活動をしていて、部活で頑張った後に帰る

と、みんなが「おかえり」と言ってくれるのがとても嬉しい！試合に出られるようになったら、みんなを招待したいと思っています。

——帰る時間がそれぞれ違うようですが、ご飯はみんなで食べているのですか。

小田…それぞれ食べることもあれば、みんなで食べることもあります。先日はチーズフォンデュをしたいという話になり、翌日の夜遅く、11時にみんなで集まって食べました。

吉村…私の部活が終わるのを、待つてくれたんですよ。



天気の良い日はベランダでカフェタイム。授業の話で盛り上がりります。



サークルや部活に打ち込んで家に帰ったあとは友人との心安らぐ時間。

※1.Kyushu University International Friendship Association

※2.Kyushu University Foreign Students Association



部屋に用意した掲示板。それぞれが書き込むメッセージはコミュニケーションの一つ。

——共同生活をして良かったと思えることは何ですか。

単…全然寂しくない事です。

全員…私もそう思う！

単…以前、風邪をひいて熱を出したときに、夜中にすりりんごを作って看病してくれました。とても嬉しかったです。みんなありがとう！

小田…照れますね…。私はやはり、みんなでご飯を食べるのがとても楽しいです。

吉村…この前は私の誕生日だったので、お祝いしてくれたんですよ。

小田…留学生の2人がケーキ

を作ってくれて、午前0時になった瞬間にみんなで「おめでとう！」と。単さん、姜さんはイベントのたびに率先して準備をしてくれるんです。共同生活をして良かったというのはもちろん、このメンバーで良かったと心から思います。

——ドミトリー3のほかの部屋の学生との交流はありますか。

小田…合同で天ぷらパーティーをしたことがあります。10人弱がこの部屋に集まることもありますよ。

吉村…ドミトリー3の友達と二

見ヶ浦までハイキングに行きました。片道2時間くらいかかりましたが、とても楽しかったです。山道を歩いていたら地元のおじさんからみかんをいただいたりして。二見ヶ浦は風景も素晴らしいのでおすすめです。

小田…この辺りは人がとても優しいのが魅力的ですね。

——ほかに福岡のおすすめスポットはありますか。

単…下山門や二見ヶ浦、能古島など、海が近いところはとても気持ちの良い場所です。

小田…糸島市はおいしいものが

いっぱいあるので大好きです。道の駅のような物産店も点在して

いるので留学生の2人を連れていきたいなと思います。また、私は北九州市出身で、実家近くのスペースワールドはとても楽しいので、ぜひ来てほしいです。

——ドミトリーは街や駅から少し離れていますが、不便さを感じることはありませんか。

小田…スーパーが近くにあれば良いとは思いますが、お米などはネットスーパーを利用している人が多いですよ。

——週末はどんな過ごし方をしているのでしょうか。

単…休みの日が合えば一緒にパンケーキを作ったりお出かけしたり。先日は神社のお祭りにも行きました。

姜…部屋に掲示板があり、メッセージやお誘いなど、何かあれば書き込んでみんなに知らせています。

単…ドミトリー生活は毎日楽しいですよ。

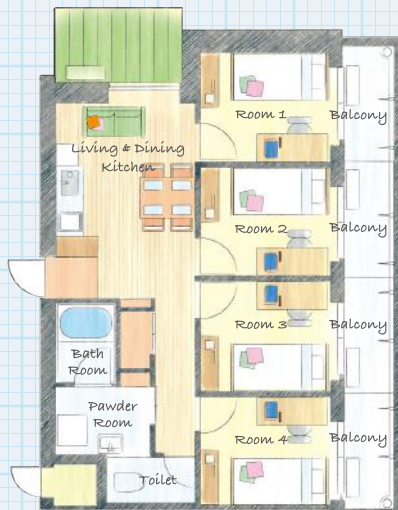
これからもさまざまな国籍の友人たちと生活を共にしながら学び、かけがえのない日々を過ごしてくださいね。

今日はありがとうございました。

Welcome to the Dormitory!



ドミトリーでは大規模な交流会を実施することもあります。垣根を超えて友情が育まれるきっかけになっています。



ドミトリー3の見取り図の一例。ダイニングテーブルなどが配されたリビング、4人それぞれに用意された個室があります。



留学生向け居住施設は、ドミトリー1、ドミトリー2、ドミトリー3、伊都協奏館の4棟。異なる文化の学生が共に生活をするので、ルールが決められています。全館禁煙、全館飲酒禁止、自室内は土足禁止になっています。

「フロンランナー」は九州大学の若手研究者の
最前線をインタビュー形式で紹介するシリーズです。

こころとからだの発達から 他者理解の発達過程を探る

子どもがいつ何を理解し、どう発達するのか。
発達心理学の分野で海外での受賞歴もある
實藤和佳子准教授にお話を伺いました。



九州大学 大学院人間環境学研究院 准教授

實藤 和佳子 Wakako Sanefuji

2003年3月	九州大学 教育学部卒業
2005年3月	九州大学 大学院人間環境学府 修士課程修了
2008年3月	九州大学 大学院人間環境学府 博士後期課程修了
2008年4月	日本学術振興会 特別研究員PD(東京大学)
2009年4月	大阪大学 子どものこころの分子統御機構研究センター 特任助教
2011年4月	大阪大学 大学院連合小児発達学研究科 助教
2013年1月	九州大学 高等研究院 講師
2014年4月～	九州大学 大学院人間環境学研究院 准教授

——発達心理学とはどのような
学問なのでしょう。また、この
学問を専攻しようと思ったきっ
かけはなんでしょうか。

人がどのように成長、発達し
ていくかを調べる学問です。人
は生涯を通じて変化していく
ため、発達心理学の研究対象
は生涯にわたりますが、私は
特に乳幼児を対象に研究を進
めています。単純に、赤ちゃんが
すごく好きなんです。言葉で
のコミュニケーションがまだ難し
い乳幼児が、こちらや何かを
じっと見つめることがあります

よね。「今、何を考えているのかな」「私たちをどう見ているのだろう」と興味を持ったのがきっかけです。

——確かに、子どもの発達はまだ分からないことが多いですね。先生の研究について教えてください。

赤ちゃんの発達はあつという間で、いつの間にか言葉を話して会話をしたり、他の人と一緒に何かをしたりするようになります。しかし、「いつから、どのように、なぜ発達していったのか」と問われてもよく分からないほど、その発達は日常生活の中でひそやかに進みます。そこで、大体いつ頃からどのようなことができるようになるのか、何かができるようになったときにそれは次にどの発達につながっていくのかを研究しています。特にほかの人の気持ちや考えの理解や他者とのコミュニケーションに焦点をあて、データを集めています。

——実際にどのような調査をしているのでしょうか。

前任が大阪大学だったため、関西在住の子どもたちのデータを以前から継続して収集しています。生後1歳半までは毎

月1回、その後も定期的に発達を調べる調査や検査に協力してもらっています。例えば視線を計測する調査、おもちゃを使った調査、発達検査、保護者へのアンケートなどがあります。

こうした調査での変化をみていくことで、言葉や運動、コミュニケーション能力などの発達を調べます。たった1カ月でも子どもは驚くほど発達するものです。調査ではご家庭では試す



本やおもちゃを使いながら、様々な領域の発達を観察・評価します。

機会が少ないことを含め、一定期間後に同じことを反復して観察するのですが、「これまででできなかったことがいつの間にかできるようになっている」と保護者が驚かれることもあるんです。子どもたちの発達を私も毎回楽しみにしながら、さまざまな領域の発達を細やかに記録しています。

——調査を通して思いもしなかった結果や発見はありましたか。

今はまだデータを集めているところなので判明していない部分が多いです。発達心理学では、これまで提唱されてきた仮説や理論の全てが実証データに基づいているわけではありません。そのため、理論ではあまり取り上げられていない発達現象が実は重要である可能性もあるわけです。それで、「関係があるかもしれない」という仮定で、幅広い領域の発達についてデータを取っているのがデータ量は膨大です。さらに、調査中の子どもたちの行動をビデオで記録し、その記録をもとに1秒以下の時間単位で観察することもあり、たった数分の行動でも分析にはかなりの時間がかか

ります。分析項目もたくさんあり、データ収集も毎月続くので、とにかくデータが多いんです。

——気が遠くなりそうなほどの量ですね。

今集めているデータの分析にはさらに時間がかかるでしょう。しかし、この調査から、データに基づいて、他者の心を理解していく発達プロセスに関する新しい発達の理論を導き出すことができると思っています。

——調査に協力してくれる親子との関係で、印象的だった出来事がありますか。

1歳半までの間は毎月お会いしていたので、まるで親戚のような気分でした。印象的だったことは全ての子どもたちやご家族にそれぞれありますが：オープンに話しくいことでもありますし(笑)、具体的なエピソードはご家族との間だけの大切な思い出にさせてください。「印象的」とは違うかもしれませんが、調査では必ず親子遊びの時間があります。きょうだい児がいる場合は、1人のお子さんだけと遊ぶ時間は普段なかなかつくれないので、「この時間だけが2人の貴重な時



ゼミの風景。それぞれの研究計画や収集したデータの結果など、みんなで楽しくディスカッションしながら、研究を進めています。

間」とお伺いしたことがあり、私も嬉しく感じたことを覚えていました。

——親子遊びの時間も、調査しているのですか。

はい、親子遊びもデータとして記録・分析しています。例えば、保護者の声かけの内容やタイミング、遊びの提示の仕方など、子どもに接する親の方略はペアによっても違いますし、同じ

親子でも子どもの月齢によってまた違います。親子遊びのデータから、子どもがどのような発達段階にいるときに親はどのような関わりをすることが多いのかを検証します。子どもの発達に応じた関わりの特徴を明らかにし、発達に遅れやつまづきがある子どもへの発達支援などに応用できる知見が得られたら、と思っています。

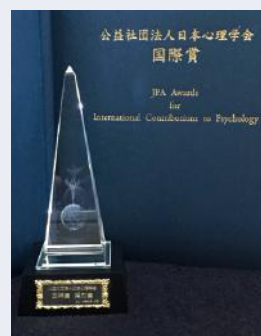
——これまでに国内外で多数受賞されていますが、受賞につなげた知見について教えてください。

乳幼児は誕生時から人に注目しやすいという傾向が報告されてきました。それは、他者が自分自身と外見的に似ているからではないか、そして外見だけでなく内面の「こころ」も類似していることにも気付いていき、他者の心の理解に至るのではないかという仮説があります。私はこの仮説に着目して、実際に乳幼児が自分と類似した対象に特別な関心を向けること、そうした傾向の相対的な弱さが自閉症(発達障がいの一つ)と診断された子どもにみられることを複数の研究から示してきました。それぞれの賞は

こうした一連の研究成果を得る中でいただけてきました。

——最も大きな賞はどれですか。その研究では、実際にどんな調査をしたのでしょうか。

世界乳幼児精神保健学会でいただいた賞です。まさか海外で賞をいただけたらと思っていなかったのですが、驚きも喜びも大きかったですね。自閉症児の行動の真似をすることで「ほかの人もあなたと似ている存在なんだよ」ということを強調して示す時間を継続して設けると、他者への注目だけではなく、他者の理解や他者とのやりとりが発達したことを実証しました。授賞式は横浜、記念講演はドイツで開催され、今までや今



世界乳幼児精神保健学会で受賞した時の盾と日本心理学会国際賞のトロフィー。

の研究について発表しました。——研究で楽しさややりがいを感じる時はどういう時でしょうか。

もともと子どもが好きなもので、絶えず子どもと接する機会があることです。継続してお子さんの発達を追えるのも楽しいですし、子どもを取り巻く状況を聞きながらその環境や状況と発達との関連性を調べることに面白味を見いだしています。ただ、発達には実に多くの要因が関係するため、他者の心を理解する過程を実証するにはかなり苦労するだろうなとも感じています。

——ゼミは3年前にスタートしたそうですが、どんな指導をしていますか。

「それぞれ好きなことを研究してください」といつも言っています。学生自身が知りたいと思えることでないと研究は進みませんし、学生のみなさんも私も楽しくないんですよ。たとえば、自分のテーマについて筋道立てて追究していくことはきつと大切な経験として蓄積されると考えています。学生はみなさん、仲が良く研究熱心です。全員でディスカッションしながら、

Q 研究に必須のものを教えてください。

A 子どもの調査や発達検査に使っているおもちゃです。いつ頃何ができるのか、どのようなコミュニケーションをするのか、データを取り続けています。



Q 母校に戻り、改めて感じた九州大学の良さは?

A 多くの先生方は私が学生の時からいっしょに、大変お世話になってきました。温かな先生方に囲まれ、何かあればすぐ相談したりご助言をいただいたりしながら、研究や教育を進められることです。

Q 研究の合間の息抜きはありますか?

A テニスです。大学1年生の時にラケットは買い、東京と大阪に引っ越しをする時にも持参したのですが今まで使用する機会がなく…。ようやく最近始めて、今はちょっとだけ上手になりましたよ。甘いものが好きで、ケーキを作ったり食べたりするのも気分転換になります。



ゼミ生に聞きました

今どんな研究をしていますか?

教育学部4年の山口小夜子さんは、「決して触らないでね」と言われたおもちゃを子どもが触って壊してしまった場合、子どもは隠そうとするのか、何とか元に戻そうとするのか、素直に謝るのか、罪悪感に関連する行動について追究しているそうです。實藤先生のゼミに入った理由はみなさんさまざまですが、共通しているのは「子どもが好き」なことでした。實藤先生の印象は「優しく、チャレンジ精神も豊富で、一人一人と向き合ってくれる先生です」と教えてくれました。



それぞれの研究内容や計画について案を練っていきま。

—— 学生さんはどのような研究をしていますか。

赤ちゃんは自分とは異なる他者の知識を理解できるか、子

どもはどんなことでも模倣するのか、状況によって嘘をつく、つかないと判断を変えられるか、道徳的な感情はどう芽生えてくるか、言葉はどのように獲得されていくのか、ケンカし

た、自閉症と診断されたお子

今はいくさんのお子さんの発達過程を追っている段階なので、それぞれの発達現象にどう関連性があるのかがまだ不明です。データに基づいて、他者理解やコミュニケーションの発達のプロセスを実証したいです。また、自閉症と診断されたお子

たときはどう仲直りするかなどです。それぞれテーマは違うものの、一緒に議論しているので研究の幅が広がっていると感じます。

—— これからの展望、夢を教えてください。

さんは「自閉症児」とひとくりにされることが多いんですが、同時に、その発達や特徴には個人差が大きいことも知られています。自閉症発達の個人差やその発達過程についても、データから明らかにしていきたいと思っています。

—— 人の心はどう発達していくのか、未知の世界がこれから紐解かれていくのです。とても興味深いお話をありがとうございます。

* 研究推進職 (U R A : University Research Administrator) とは研究開発に係る企画立案、資金の確保、知的財産の取得および活用、その他研究開発に係る業務に従事する専門職。



今回の聞き手
学術研究・産学官連携本部
グランドサポートグループ
研究推進専門員 (U R A)
博士 (農学) 米満彩



記者会見レポート



本学と(株)Kyuluxの合同記者会見

九大発のベンチャー企業！

次世代有機EL発光材料の 実用化を進める (株)Kyuluxが遂に本格稼働

最先端有機光エレクトロニクス研究センター(OPERA)

センター長 安達 千波矢 あだち ちはや



研究室の様子

九州大学最先端有機光エレクトロニクス研究センターにおいて、内閣府最先端研究開発支援プログラム(FIRST)での研究開発により創出されたTADF(Thermally Activated Delayed Fluorescence)材料の実用化を担うスタートアップ企業として(株)Kyuluxが設立されました。

これまでFIRSTにおける参画企業14社と多くの議論を重ね、TADFの実用化について検討をし、この度本格稼働となりました。平成24年に学術雑誌「Nature」で、TADFのコンセプトにより電流を100%の量子効率で光に変換できる有機EL(OLED)デバイスを発表して以来、世界中の大学・民間企業で追試が行われ、この発見が正しいことが確認されました。その後、九大で発見されたコンセプトを元に、多くの新しい分子骨格を用いたTADF材料の開発が世界的規模で進み、平成27年には、年間100本以上の論文が発表されています。これは単なる実用的な材料の発見のみならず、新しい学問領域を開

有機ELとは？

有機薄膜(～0.0001mm)に電流を流すと、電子(負電荷)と正孔(正電荷)が結合して発光する現象です。有機分子によって、発光の色やエネルギー効率が変化します。この有機ELを使ったディスプレイや照明などが現在実用化されていて、次世代技術として注目を浴びています。ガラスやフィルムの上に構成され、軽い・曲げられる素材でのディスプレイができるため、新しいアプリケーションへの展開も期待が高まっています。

安達先生から一言



新しい発見は、先入観のない若い学生や研究員に多くのチャンスがあります。大きな発見は、実は「基礎の中」にこそあります。実際に、TADFのメカニズムは「量子化学」の教科書に多くのヒントがありました。科学に終わりはありません。常に新しい視点から物事を見ること、そして、新しいことを発見したいという強い情熱があれば、きっと新しい道が切り拓けるはずですよ。できない技術はないという強い意志と失敗を恐れず、新しい課題にチャレンジしていきましょう。

研究室Webサイト: <http://www.cstf.kyushu-u.ac.jp/~adachilab/lab/>
(株)Kyulux Webサイト: <http://www.kyulux.com/ja/index.html>

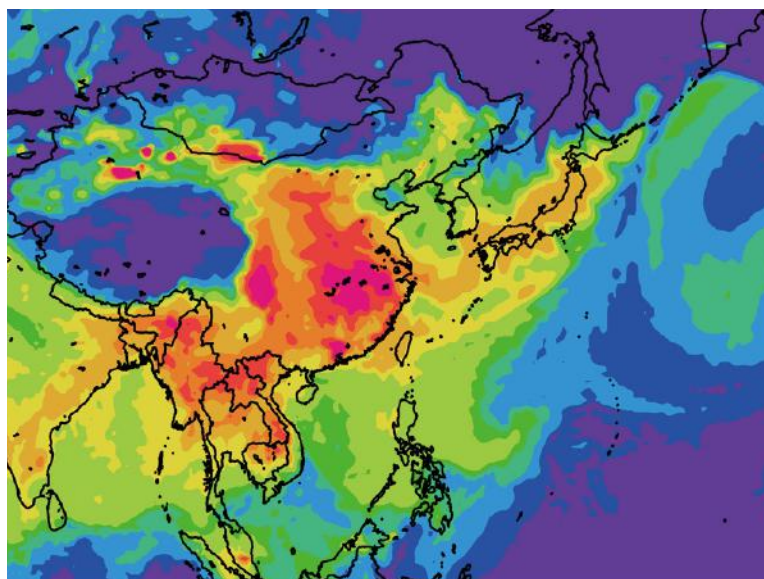
拓したことにほかなりません。研究成果の実用化は、社会還元として研究者には常に求められています。私たちが世界で初めて開発に成功した材料の実用化には、分子構造やデバイス構造の最適化など、さらなる多くの努力が必要となります。また、斬新なコンセプトを实



フレキシブルデバイス

めには私たちが、九大発のベンチャーを立ち上げたのです。今後、有機光エレクトロニクスの研究を基礎から実用化まで一体となつて推進し、福岡で研究開発拠点の形成を進めて参ります。

実用化するためには、材料・デバイス開発のみならず、知的財産やビジネスとしての視点が大切になります。そのた



SPRINTARSのPM2.5濃度予測(アジア)

PM2.5濃度予測システムを開発

理学的アプローチで 大気汚染問題を解決

応用力学研究所

教授 竹村 俊彦 たけむら としひこ



記者懇談会で説明する竹村教授

平成25年1月から急速に全国に広がった用語「PM2.5」。特にアジアの新興国の都市部でPM2.5などによる大気汚染が深刻な状況です。それが日本へも越境して飛来してくることがあるため、気にしている人も多いのではないのでしょうか。

私は、PM2.5などの空気中の微粒子(エアロゾル)の濃度を予測するシステムを開発し、8年ほど前から何度かシステムに改良を加えながら毎日運用して予測結果をWebサイトで公開しています(※)。予測結果は、テレビ・ラジオ・新聞などのメディアでも転載利用されていて、日々の生活情報として活用頂いています。また、予測精度を向上させるための研究も続けています。このシステムのベースとなっているのはSPRINTARS(スプリンターズ)というソフトウェアです。SPRINTARSを開発してきた第一の目的は濃度予測そのものではなく、PM2.5などの微粒子(エアロゾル)が引き起こす気候変動を解析することでした。エアロゾルが増加すると、地上付近の気温が下がる

PM2.5とは？

空気中にはさまざまな化学組成や大きさの微粒子が浮かっていますが、その中で直径がおおよそ2.5マイクロメートル以下の微粒子をPM2.5と呼びます。したがって、PM2.5の化学組成はさまざまであり、人間活動由来のもの以外に自然由来のものもあります。PM2.5が高濃度の場合には、視程障害を引き起こすほか、アレルギー疾患・呼吸器疾患・循環器疾患を悪化させる可能性が指摘されています。

竹村先生から一言



身近でかつ国際的な環境問題である大気汚染と地球温暖化の解決には、理学的アプローチによる影響評価、工学的アプローチによる環境対策や再生可能エネルギーシステムの開発のほか、政策的アプローチも必要です。この分野には幅広い人材が求められていますが、どのようなアプローチをする場合でも、大気汚染と気候変動の仕組みの理解は不可欠です。学生のみならず、是非しっかり学んでください！

研究室Webサイト：<http://www.riam.kyushu-u.ac.jp/climate>SPRINTARS Webサイト：<http://sprintars.net/>

をいくらか相殺してきたのではと推定されています。

今後、大気汚染を改善するためにPM2.5の濃度だけを下げていくと、増え続ける二酸化炭素による地球温暖化を加速させてしまう可能性があります。総合的な環境対策として、大気汚染と地球温暖化の対策の両方を並行して進めることが重要です。

(※) 予測結果Webサイト：SPRINTARS
<http://sprintars.net/forecastj.html>

SPRINTARS

Spectral Radiation Transport Model for Aerosol Species

[ホーム](#) [最新予測 \(一般\)](#) [最新予測 \(専門\)](#) [アーカイブ](#) [研究チーム](#)

English

毎日午後12時頃東京午後12時

各種の予測

PM2.5予測・黄砂予測

2016年12月27日 最新

観測データはここに

[今日・明日](#)
[週間](#)

予測期間

今日 (12月27日)

明日 (12月28日)

前週 (前) 0-12 12-18 18-24 0-6 6-12 12-18 18-24

PM2.5

東アジア

アジア広域

黄砂

東アジア

アジア広域

北東

北東

北東

PM2.5

PM2.5

PM2.5

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

予測値

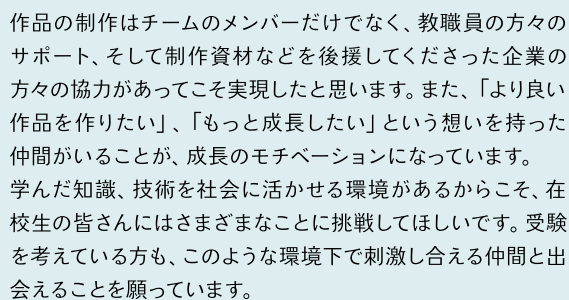
予測値

予測値



作品の説明

代表者から一言



記者懇談会での集合写真

今回のプロジェクトは、学生展のテーマ「インタラクティブな遊具」の解釈から始まりました。

遊具の形はメンバーの鼻を3Dスキャンし、モデリングしたデータを基に制作しました。大人でも子どもでも鼻穴を通り抜けられること、見た目からも伝わる面白さを実現するた

5月にニューヨークで開催された国際展示会への出展も終えて、受賞した作品も海外に紹介することができました。今後は日本のみならず、世界へ発信できるデザインができるよう日々成長していきたいと思います。



提供しているTFTメニュー

私たちが主体としている活動



九大生が現地からレポート

世界のキャンパス

九州大学から世界へ!!
海外でどんなことを学び、どんな暮らしをしているのか。
素直な言葉で語っていただきました。

世界遺産の街で美術史を学び
週末は仲間とワインで乾杯!
やりたいことが思い切りできます。



文学部4年
香月 佑太
(かつき ゆうた)



留学国: フランス
留学先: ボルドーモンテニユ大学
(ボルドー第三大学)



10月末に行われるゾンビウォーク。友人達と市役所前での一枚。
(最前列右が香月さん)

大学で美学美術史を学び、フランス美術にのめり込んでいった3年生の夏。「これはもう本場の芸術と研究に触れるしかない!」と決意した私は、初めての海外に旅立つことにしました。そしてフランス南西部の美しい街、ボルドーモンテニユ大学(ボルドー第三大学)で約10カ月の留学生活を始めることになったのです。

歴史的街並みの美しさから世界遺産にも登録されているボルドーは「ヨーロッパ最大の学生の街」としても名を馳せており、世界各国からさまざまな目的を持った学生がやって来ます。夕方や週末は街の中心部が学生でいっぱいになり、バーや友人宅で本場のワイン(驚く程安い!!)を片手にパーティーをするという賑やかな一面もあります。

私はフランス語学校や、美学美術史の授業、日本語学科

の授業などに参加しました。どの講義もレベルが高く、日常会話から学術的アプローチの仕方、日本とフランスの違いなど多方面の学びがありました。難易度が高く、全てフランス語なのでときには投げ出したくなるかもしれませんが、その多様性ゆえに「自分のやりたいことが何でもできる」とこそがボルドーの強みだと思います。この街での経験や出会った仲間たちとの思い出は一生忘れられないものになると確信しています。



ボルドー中心地、観光名所の水鏡。
美しいその景色を求めて大勢の観光客が訪れる。

留学生の本音トーク

留学先で印象に残ったできごとは?

「日本語学科マスタークラス」で演劇をしたことです。日本とフランスに関係するストーリーをクラスメイトと一緒に考え、観客の前で演じました。このクラスでは最後の授業終了後、教室で先生を含めて小さなパーティーを開催しました。忘れられない思い出です。



留学情報はこちら!

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>

大学情報
ボルドーモンテニユ大学
(ボルドー第三大学)

ボルドー中心部からトラム(路面電車)で20分程のベサックに位置しています。1441年に創立されたボルドー大学の中から、主に文系学部が分割、再構成されることで独立した一大学で、2014年度から正式名称をボルドーモンテニユ大学へと変更。外国人のための言語学校DE FLEがあり、言語コースの充実が特徴の一つ。無料もしくは小額のお金で、イタリア語やドイツ語、アラビア語などの主要言語のほか、バスク語やカタルーニャ語などの地方言語を含めた20言語余りの授業を受けることができます。大規模な学生数のため複数の食堂や図書館、また学生のための施設(運動場やジム、学生寮など)が完備されており、交通アクセスを含め学生であると割引になるものも多く、大学周辺は十分な生活環境が整っています。



留学生体験記

九大で学んでいる留学生の日常を紹介する新コーナーがスタート。
今回はフランス・パリの国立東洋言語文化大学(INALCO)から
来た2人に九大や福岡の魅力についてインタビューしました。

写真左＝レミさん 写真右＝ノエミさん (以下敬称略)

Q 留学のきっかけは？

レミ 私は言葉に惹かれたからです。大学で日本語学を学んでいて
特におもしろかったのは文法でした。主語、述語、修飾語と並ぶフラン
ス語と日本語とは文章の作り方が違って、知れば知るほど楽し
いですね。自然豊かな九大の環境も決め手の一つです。

ノエミ 最初に日本の文化に触れたのは、小学生のとき。宮崎駿監督
のアニメ『千と千尋の神隠し』と『もののけ姫』を観たのがきっかけ
で日本の文化に興味を持ち、2年前旅行で初めて福岡に来ました。
街や人々の雰囲気が気に入ったので九大への留学を決めたんです。

Q 九大の魅力は？

レミ 日本人の学生と留学生のグループに分かれてディスカッション
をしながら進行していく「日本事情」の授業が楽しみです。日本人の
学生はシャイな印象があるけれど、こうした授業があると話すきっ
かけになるので友達も増えそう！

ノエミ 自然に恵まれた広くてきれいなキャンパス！学内をシャトル
バスで移動するような規模の大学はフランスにはありませんね。ウ
エストゾーンとイーストゾーンを結ぶ「九大ゲートブリッジ」や「椎木
講堂」は、最初に見たとき特にインパクトがありました。

カフェ ウエストゾーンにある
「E-café」はお気に入りの
休憩スポット。

散歩 休みの日にはときどき今宿の
海沿いを散歩します。大濠公
園も大好きです。

寿司 パリでも人気の日本食。私の
ナンバーワンはやっぱりお寿
司！刺身も大好きです。



My
Favorite

海 ドミトリーから歩いて10分
できれいな浜辺に到着。お気
に入りの散歩コースです。

温泉 糸島の地底から湧き出る天
然水の温泉「伊都の湯どこ
ろ」でリラックス！

うどん 大学のすぐ近くにある「一番
うどん」で食べる天ぷらう
どん、最高です！



ノエミさん PRADIER, Noémie Marie 日本語・日本文化研修コース (JLCC)
大学で日本語学を学び、特に文法や漢字など言語学と歴史に興味を持つ。
ショッピングや散歩が好きで、休みの日は天神～キャナルシティ～博多と
ショッピングをしながら歩くこともある。

レミさん CLOUET, Rémi 日本語・日本文化研修コース (JLCC)
大学で日本語学を学び、東京や関西、九州へ旅行しながら日本への関心を深
めた。湯布院のカフェでアルバイトをしたこともある行動派。趣味は温泉めぐ
り。夏の楽しみは海でビールを飲んで過ごすこと。



九州大学総合研究博物館
Kyushu University Museum

MUSEUM REPORT vol.5 / 考古

九州大学総合研究博物館の収蔵資料 九州考古学研究の基準資料群



弥生時代の甕棺(旧工学部本館地下収蔵庫)



鴻臚館跡出土の軒瓦(出典:『九州大学百年の宝物』)



磨製石斧製作工程資料
(出典:『九州大学百年の宝物』)

考古学は人間活動の物的痕跡から人間の歴史を研究する学問です。研究対象に時間・空間の制限はなく、研究資料も動産である遺物から不動産である遺構・遺跡まで多様なものを含みます。

九州大学の考古学研究は現在、人文科学研究院、比較社会文化研究院、アジア埋蔵文化財研究センター、埋蔵文化財調査室と総合研究博物館に在籍する教員が、日本列島からユーラシア大陸各地をフィールドとして推進しています。

当館には、人文科学研究院から移管された資料や、旧制福岡高等学校に由来する旧「玉泉館」資料、中山平次郎先生収集資料などがあり、箱崎

キャンパスの旧工学部本館の地下に収蔵されています。北部九州の弥生時代・古墳時代・古代の資料が中心です。

北部九州は大陸に近く、先進文化導入の窓口としての位置を占め続けてきました。

弥生時代の北部九州に特徴的な葬具である大型甕棺や墓地祭祀用土器は、墓地の様相から社会の複雑化・階層化を解明するための重要資料です。昭和前半期の日本考古学をリードした中山平次郎博士(1871-1956)が収集し、弥生時代に稲作農耕が存在する証拠とされた炭化米資料や、弥生時代の石器生産体制復元研究に使用された玄武岩磨製石斧の製作工程資料、古代の迎賓

館である鴻臚館の場所特定の根拠となった瓦資料は著名です。このほか、稲作農耕導入期の重要遺跡である佐賀県唐津市宇木汲田遺跡出土資料、弥生時代末から古墳時代初頭の土器である西新式の標識資料、ヤマト王権に反抗した筑紫君磐井の墓である八女市岩戸山古墳出土の須恵器、奈良時代の三宅廃寺出土の瓦、福岡市指定文化財である西区飯盛山経塚出土の瓦経など、研究に欠かせない重要資料が多数含まれています。これらは当館の常設展示や企画展示で順次紹介して参ります。



当館常設展示の弥生土器・土師器・磨製石斧

(九州大学総合研究博物館
教授 岩永省三)



未来のリーダー総勢4,822名が巣立つ

平成27年度 学位記授与式

平成28年3月25日(金)、伊都キャンパスの椎木講堂において、平成27年度学位記授与式を挙行了しました。

九大フルハーモニーオーケストラによる祝賀演奏の後に始まった学士学位記授与式では、久保総長から11の学部および21世紀プログラムの総代にそれぞれ学位記が授与され、2599名が卒業しました。

久保総長は告辞において、「皆さんが本学を卒業したことに誇りを持って、学んだことを生かし、夢を持って今後の未来を切り開いて大きく飛躍し、グローバル社会を力強く牽引するリーダーとして大成されることを期待します。」とはなむけの言葉を贈り、卒業生を代表して菅沼大輝さん(芸術工学部)が「これからも九州大学で培った学びの力と、高い志を武器に洗練された深遠な『問い』を探究し続けたいと思います。」と答辞を述べました。

午後からは同会場で大学院の学位記授与式が行われ、修士学位記、専門職学位記、博士学位記が各総代に授与され、2223名が大学院を修了しました。

式後は卒業生のみなさんをサークルの後輩たちが出迎えて、あちらこちらで胴上げが行われていました。卒業生の1人は「これからは社会人として仕事に邁進したい。」と意気込みを語ってくれました。

平成28年度 入学式

平成28年4月7日(木)、伊都キャンパスの椎木講堂において平成28年度入学式を挙行し、11の学部および21世紀プログラムの2653名が新たに九大学生となりました。

久保総長は新入生への告辞で、「大学での知的な生活、社会的な生活に積極的、能動的に関わっていただきたい。つまづき、悩むこともあると思いますが、今、ここを大切に」という気持ちで、これからの皆さんの多くの出会い、発見や体験で実り多い大学生生活になることを心から祈っております。」と述べました。

続いて、新入生総代の太郎浦拓真さん(文学部)が、「私達は本学教育の趣旨を体して、自立の精神を重んじ、学術を極めるとともに、自ら人格の陶冶に努め、社会の期待に沿うことを誓います。」と誓詞を朗読しました。

式後には同会場で、丸野理事・副学長による講話、九大混声合唱団による学生歌「松原に」合唱、応援団・チアリーダーによる演舞披露、学生生活ガイダンスが行われました。

同日に行われた大学院の入学式では、修士課程1769名、博士(後期)課程592名、専門職学位課程136名、合計2497名の大学院生が入学しました。総代として博士(後期)課程の田中美彩都さん(人文科学府)が誓詞を朗読しました。

椎木講堂で盛大に開催



Topics 01 國武豊喜名誉教授が 高等研究院の特別主幹教授に 就任

2016年1月27日(水)、伊都キャンパスの椎木講堂で、高等研究院の國武豊喜特別主幹教授の辞令交付式・就任式を執り行いました。

國武名誉教授は、「分子組織化学」の概念、ならびに自己組織化を基礎とする材料科学の基盤を確立するとともに、分子組織化学・材料科学分野において優れた人材を数多く育成し、国際的な学術交流にも大きく貢献していることから、2015年12月に九州大学特別主幹教授に就任されました。

就任式では久保総長が、「國武氏の特別主幹教授就任によって、本学のさらなる発展が期待されます。」と挨拶されました。國武特別主幹教授は、「新たな使命を感じております。若手研究者の指導育成の手助けになれば。」と抱負を述べました。

高等研究院では、國武特別主幹教授を加えて総勢4人の特別主幹教授が中心となり、本学の高度な研究活動の展開や次世代を担う若手研究者の育成、卓越した研究成果の学内外への発信など、本学の発展に貢献していきます。



抱負を語る國武特別主幹教授



左から新海特別主幹教授、久保総長、國武特別主幹教授、巖佐高等研究院長

Topics 03 総合教育研究棟 (人文社会科学系) 新営工事の安全祈願祭を開催

2016年1月29日(金)、伊都キャンパスで、総合教育研究棟(人文社会科学系)新営工事の安全祈願祭を工事受注者により開催しました。建設工事の安全を祈願する神事は厳かに執り行われ、本学からは久保総



安全祈願祭の様相

長をはじめ安浦理事・副学長、荒殿理事・副学長、芝田理事・事務局長(当時)や各部局の研究院長など40名が出席しました。本事業は伊都キャンパスへの統合移転事業の第3ステージにおける人文社会科学系施設の整備です。本事業の整備完了に伴い、ウエストゾーン、センターゾーンからイーストゾーンに至るアカデミックゾーンの骨格が整備され、キャンパスの一体的な利用と学際的な学問領域の研究がより一層推進されます。

総合教育研究棟(人文社会科学系)は、地上9階地下1階建、面積51,920㎡となる予定で、2018年2月末に工事が完了する予定です。

Topics 02 ノーベル化学賞受賞者 ジャンマリー・レーン博士による 特別講演会を開催

2016年3月15日(火)、ノーベル化学賞受賞者(1987年)であるジャンマリー・レーン(Jean-Marie Lehn)博士が来学し、「化学の将来展望：超分子化学から自己最適化学に向けて」と題した特別講演会(主催：高等研究院、共催：カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所)を開催しました。レーン博士は会場いっぱいの聴衆を前に、超分子化学に関する自身の研究について、エピソードなどを交えて講演しました。

講演後は若手研究者・大学院生らと活発に意見交換を行い、講演会は盛況のうちに終了しました。また、これに先立ち、同日、伊都キャンパス椎木講堂にて九州大学栄誉教授の称号授与



特別講演を行うジャンマリー・レーン博士

式が行われました。これは本学の教育研究活動の発展に多大の寄与および顕著な功績があったとして授与されるもので、バリー・シャープレス博士、ムハマド・ユヌス氏に続き、ジャンマリー・レーン博士が本学3人目となります。

Topics 04

九州大学都市研究センターと熊本県水俣市が 都市の包括的な富の向上に向けた連携協定を締結

本学の都市研究センターと熊本県水俣市は、2016年1月19日（火）、連携協定の調印式を行いました。

人口減少に直面している水俣市は、政策効果を評価可能な「新国富指標（※）」を活用することで都市の発展に貢献することを目的とし、行政担当者の方々とより一層の連携を進めることで確実な成果を上げることを目指し、本協定を締結しました。

調印式には、西田弘志水俣市長、都市研究センターから馬奈木俊介センター長が出席しました。西田市長は、「水俣が将来に渡って活力ある持続可能な社会であるために長期的な目線で地に足のついた取組を進めたい。新国富指標で有効な政策を客観的に選定することは新しい取組なので期待している。」と述べました。

また、馬奈木センター長は「健康や教育といった見えにくいものを金銭評価することでその価値が見えるようになる。自治体でうまく应用できればより良い政策やその評価につなげることができる。」と語りました。

今後、将来的に有効な新たな政策策定に向けた水俣市と都市研究センターの共同研究や調査活動が総合的に行われるようになります。

（※）新国富指標=2012年の国連持続可能な開発会議（リオ+20）に由来する経済持続性指標



連携協定を結んだ西田水俣市長（左）と馬奈木センター長（中央）

Topics 05

持続可能な社会のための決断科学センターと 九州労働金庫が協力協定を締結

2016年3月9日（水）、本学の持続可能な社会のための決断科学センターと九州労働金庫が協力協定の調印式を行いました。

今回の協定は、「福祉金融機関としての地域における持続可能なビジネスモデルづくり」を経営計画として掲げる九州労働金庫と、本センターで実施している「持続可能な社会のための決断科学の形成と教育のための活動」を目標とした決断科学大学院プログラムが連携することにより、産学連携の観点から地域のビジネスモデルづくりをさらに促進させることを目的として締結したものです。

伊都キャンパスにて挙行了した調印式には、九州労働金庫からは片山鉄郎常務理事らが出席し、持続可能な社会のための決断科学センターからは矢原徹一センター長らが出席しました。

協定締結後、片山常務理事は、「さまざまな社会状況の変化の中で個人的な経済問題を解決するだけでなく、広く福祉・環境・文化を変えていくことが必要であり、大学の知見を活用して課題解決に取り組みたい。」と述べ、矢原センター長は、「このプログラムが重視するのは現場主義であり、学生にはさらなるステップアップのために実際の課題解決に携わり、広い視野を持って実践現場での経験を積み、ビジネス感覚を身につけて欲しい。」と語りました。



協定書を取り交わす矢原センター長（左）と片山常務理事（右）

今後、決断科学大学院プログラムの学生は、連携研究員として九州労働金庫から派遣される職員2名と共に共同研究、研究会、情報交換などを積極的に行う予定です。

福岡演習林で研究紹介およびサクラ見学会を開催

2016年4月5日（火）、農学部附属演習林福岡演習林において、演習林研究紹介およびサクラ見学会を開催しました。この催しは、演習林の活動状況を幅広く知っていただくために毎年開催しているもので、篠栗町・久山町および糸島市の関係者の方々と、本学の久保総長、井上理事・副学長、荒殿理事・副学長、青木理事・副学長、玉上理事・事務局長をはじめとする九大関係者合わせて約80名が参加されました。

参加者には、演習林創設百周年を機に植え替えられた若いサクラ並木、早生樹植栽試験地、「かすや資料館」などを視察していただいた後、宿泊棟講義室に展示した福岡演習林、宮崎演習林、北海道演習林における教育研究・地域連携・国際交流活動に関するポスターを題材に、演習林教職員・大学院生と熱心に意見交換していただきました。

その後の懇親会において、久保総長から、「演習林が地元の方々と共に益々発展していくことを願っています。」との挨拶があり、篠栗町・久山町の大半を占める山林の活用、地域の発展や活性化ならびに本学の教育研究・地域貢献に対して活発な意見交換が行われました。



満開のサクラの前で集合写真



ポスターを前に意見交換

受賞のお知らせ

平成28年 春の叙勲

【教育研究功労】

〈瑞宝中綬章〉

楠田 哲也

九州大学名誉教授（工）

牛島 和夫

九州大学名誉教授（シ情）

元九州大学大学院システム情報科学研究科長

元九州大学大学院システム情報科学研究科長

稲津 孝彦

九州大学名誉教授（理）

元九州大学理学部長

多田 功

九州大学名誉教授（医）

【看護業務功労】

〈瑞宝単光章〉

羽江 彰子

元九州大学病院看護師長

【文部行政事務功労】

〈瑞宝双光章〉

中島 英安

元九州大学庶務部長

日本学士院賞

特に優れた研究業績をあげた研究者に贈られる賞で、授賞式は東京にて天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いで執り行われます。

森田 浩介

大学院理学研究院教授

「113番超重元素の発見」の学術業績

平成28年度科学技術分野の文部科学大臣表彰

科学技術に関する研究開発・理解増進等において顕著な成果を収めた者についてその功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として行われているものです。

【科学技術特別賞】

森田 浩介

大学院理学研究院 教授

「113番元素の人工合成及びその崩壊過程の確認」

【科学技術賞】

中嶋 直敏

大学院工学研究院／カーボンニュートラルエネルギー国際研究所 教授

「フカーボンの基盤特性解明及び機能化に関する先導的研究」

山崎 晶

生体防衛医学研究所 教授

「結核菌を認識する受容体群の発見と宿主免疫応答に関する研究」

尹 聖昊

先導物質化学研究所 教授

「ヒエラルキー的構造解明による繊維状機能性炭素創製技術の振興」

鈴木 聡

神戸大学大学院医学研究科 教授

「平成28年3月まで九州大学生体防衛医学研究所 教授」

「がん抑制遺伝子の機能解析とがん治療薬開発への応用研究」

橋口 公一

九州大学名誉教授(農)

「固体の非可逆力学現象の支配法則の定式化に関する研究」

【若手科学者賞】

伊田 進太郎

大学院工学研究院 准教授

「二次元無機ナノ結晶を基材とした機能材料の創製に関する研究」

千葉 逸人

マス・フォア・インダストリ研究所 准教授

「無限次元の結合振動子系における分岐理論と同期現象の研究」

橋口 隆生

大学院医学研究院 准教授

「RNAウイルスの細胞侵入と抗体による中和に関する研究」

山田 琢磨

基幹教育院 准教授

「プラズマ乱流におけるストリーマー構造の発見と研究」

辻 健

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 准教授

「地震探査データの解析に基づくプレート境界地震断層の研究」

消費生活アドバイザー資格制度 創設35周年記念 企業・功労者表彰

消費生活アドバイザー資格制度創設35周年を記念するとともに、優れた企業や個人・グループに対してその功労を讃えることで、資格制度の更なる発展を目的として行われているものです。

【経済産業大臣表彰】

清水 巖

九州大学名誉教授(法)

「消費生活アドバイザー資格制度の普及・発展に貢献」

第1回日韓の教育交流への貢献に対する大臣表彰

2015年が日韓国交正常化50周年であることを受けて、これを記念するとともに、日韓の教育交流の更なる振興への取組として日韓両国の教育担当大臣の合意により創設されたものです。

韓国研究センター

平成27年度「科研費」審査委員表彰

日本学術振興会が、科学研究費助成事業(科研費)の第一段審査(書面審査)において有意義な審査意見を付した審査委員を表彰するものです。

高野 信治

大学院比較社会文化研究院 教授

石原 健

大学院理学研究院 教授

諸橋 憲一郎

大学院医学研究院 教授

小柳 悟

大学院薬学研究院 教授

山田 淳

大学院工学研究院 教授

内田 誠一

大学院システム情報科学研究院 教授

磯田 宏

大学院農学研究院 准教授

英国生態学会若手研究者賞

1913年に設立され、世界で最も歴史のある英国生態学会が発行する機関誌のひとつである「Journal of Ecology」に1年間に載録された論文のうち、若手研究者が筆頭著者となっているものを対象として特筆に値する論文を選出し、その筆頭著者に贈られるものです。

立木 佑弥

大学院理学研究院 日本学術振興会特別研究員PD

火山人材育成が急務の日本

九大に「実践的火山専門教育拠点」――

理学研究院 教授 清水 洋

「実践的火山専門教育拠点」の設置

御嶽山をはじめ阿蘇山や口永良部島など、全国各地で火山活動が活発化しています。しかし、日本では火山監視に従

事する火山専門家や観測研究を担う火山研究者が少ないのが現実です。大学や国の研究機関を合わせても国内に約80人しかおらず、30代以下の若手研究者も少なく火山人材の育成が急務となっています。また、わが国

の大学には、火山学を広く体系的に学べる火山学部や火山学科がありません。

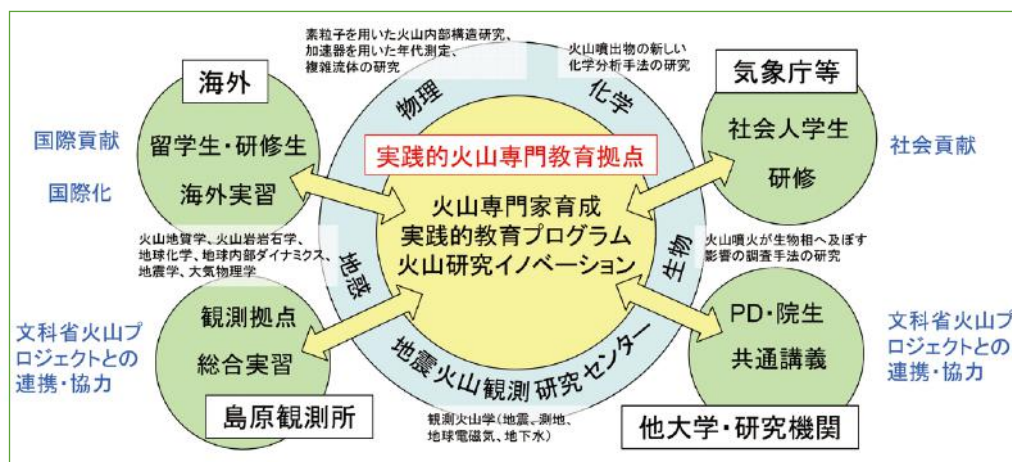
本学では従来、主に観測研究を行う火山物理学、岩石を研究する火山地質学に分けて研究者を養成してきましたが、これらの課題に対応し、火山監視や火山活動評価の高度化に貢献できる人材を育成するため、大学院理学研究院に「実践的火山専門教育拠点」を設置することになりました。

この教育拠点は、物理や地質、生物など理学全分野の研究者が協力する総合的な新カリキュラムで、学部学生を対象とした海外火山研修、大学院生を対象とした専攻横断型の火山関連科目と海外火山観測実習などを実施します。また、火山ガス分析に化学分野の研究者が、宇宙から降り注ぐ宇宙線測

定による火山内部の透視技術に物理学の専門家が加わるなど、従来の分野を越えた総合的な研究や観測ができる体制を整えていきます。この新カリキュラムでは、海外からの留学生や社会人学生も受け入れて野外実習に力を入れ、実践的な専門教育を行うことに特徴があります。

本事業により、従来よりも広い知識を持った火山専門家の育成と、分野融合研究による新しい火山研究手法の開発などが期待できます。

本事業の実施期間は5年間ですが、今後、長期間持続可能な実施体制の整備に努め、事業の継続を目指します。



小惑星に「王貞治」と命名！

元 理学研究院 助教 山岡 均
(現 国立天文台天文情報センター 広報室長・准教授)

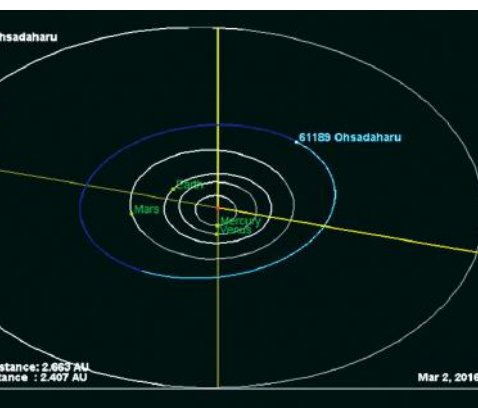
小惑星「王貞治」誕生

元理学研究院の山岡均助教を中心としたグループは、平成12年に発見された小惑星

(61189)に、福岡ソフトバンクホークス会長である王貞治さんにちなみ「Ohsadaharu」と命名することを提案し、平成28年2月26日(金)に国際天文学連合より正式決定したことが公

表されました。

この小惑星は、地球に衝突する危険がある小惑星を発見・追跡する活動を推進するNPO法人日本スペースガード協会が運営する美星スペースガードセンター(岡山県)で発見されたものです。小惑星観測チーム(BATERS)がこれまでに発見した小惑星は数百にのぼりますが、今回命名対象になった小惑星は、火星と木星の間にあるメインベルト(小惑星帯)の一員です。太陽を二回りするのに3年8カ月ほどかかり、太陽の光を反射することで明るく見えますが、その明るさから推定される直径は3キロメートルほどです。明るいつきには17等級ほどになり、肉眼や望遠鏡を覗いて見つけるのは不可能ですが、大きめの望遠鏡を使えばその姿を撮影することも難しくはありません。



小惑星Ohsadaharuの軌道。

王貞治氏からのコメント

王貞治さんは「野球も不滅だけど、天文学はもっと不滅」ぼくの名前がつくことで、天文学に興味を持つ子どもたちが増えたらうれしい」と話されました。

今回の命名は昨年3月、福岡ゆかりの天体名をつけることはできないかと話題になり、王貞治さんの名前が挙がりました。この小惑星の発見が確定した段階で付された確定番号が「61189」で、王貞治さんがジャイアンツ時代につけていた背番号「1」、ホークスや日本代表監督としてつけていた背番号「89」がいずれも含まれており、いかにも王さんにふさわしい小惑星と着目されました。

命名にあたっては日本スペースガード協会から賛同をいただき、また平成27年7月には王さんご本人からも命名の了承をいただきました。同年9月には発見者である日本スペースガード協会から国際天文学連合で小惑星命名を統括する委員会へ命名提案を送り、このたび晴れて正式名称が公表されました。山岡助教(当時)も、天文学の広報・普及にさらに尽力したいと心新たにしています。



王貞治さん(右)と山岡助教(当時)

寄附者からの声

次代を担う研究者に期待を込めて 青山 三郎 様

私は、鹿児島県鹿屋市で税務会計事務所を営んでいます。今年、81歳を迎えます。

「地域の役に立つ人と成れるようしっかり勉強せよ」

漠然と地元の鹿屋高校へ進んだ私には、入学式でのこの校長訓示はカルチャーショックでした。高校3年の暮れ、家庭の経済状況から「大学進学は無理、実社会を大学と考えよう」と決断しました。だから私は九大の入試不合格も味わずにすんだ、とも言えます(笑)。

以来、「実社会大学」で私なりに学びながら「周りの人に役立とう」と生きて来たつもりですが、振り返ると、周囲の人たちに援けられ続け、でした。「少しは恩返ししないと…」同じ九州に育まれた者として九大への寄附を思い立った次第です。

「ニュートンはリンゴが木から落ちるのを見て『万有引力』を発見した」。最近ふとこの寓話を思い出し、改めて研究という仕事のすばらしさを感じています。誰も触っていないのにリンゴが木からポトリと落ちた。「もったいない」と思う人は多いかもしれませんが、ニュートンは全く違うところにハッとしました。自分の関心を耕し、粘り強く向き合い続けた先に、とてつもない成果があるのですね。

九大がんばれ! 九大生がんばれ! 次代を担う研究者としてよりよい世界をたのみます。



「伊都キャンパス植樹プロジェクト」への協力をお願い

伊都キャンパスの整備については、学内外の貴重なご意見とご理解をいただきつつ、鋭意整備を進めています。伊都キャンパスは、平成30年度に最終ステージの文系と農学系の移転が完了する予定です。これまで、歩行者の専用空間であるキャンパス・モールや緑地を繋ぐ回廊としてのグリーン・コリドー、パブリックアートの設置等、伊都キャンパスのオープンスペース整備を進めてきました。平成18年度にご協力いただいたサクラ植樹促進基金によって、センター地区調整池周辺に植樹したサクラも少しずつ成長しています。

このたび、50年先、100年先を見据えた伊都キャンパスの研究教育環境に潤いと活気をもたらし、さらに快適なキャンパスとするための「伊都キャンパス植樹プロジェクト」への寄附を募ります。主旨をご理解頂き、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

(概要)

目的: 伊都キャンパスのキャンパス・モール/キャンパス・コモン等へのサクラ等の樹木の植樹

目標金額: 1,000万円以上

活動期間: 平成28年3月～

募金額: 一口1,000円以上(10万円以上の場合は植樹の場所に銘板を置くことも可能です。)



センターゾーン キャンパス・コモンの将来イメージ



イーストゾーンの植栽計画(文系・中央図書館)

平成28年熊本地震被災学生等支援のための募金活動

このたびの地震において犠牲になられた方々に対し哀悼の意を表すとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

そして、一日も早い復旧がなされますようお祈りいたします。

本学では、熊本県や大分県出身の学生が全体の1割以上を占め、今回の地震により保護者が被災し、生活が困難となった学生も多数在籍しております。

このため、被災学生が今後も継続して修学に励むことができるよう、また、現地でボランティア活動を希望する学生の負担が軽減できるよう募金活動を行います。

つきましては、本活動の趣旨をご理解いただき、ご協力とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成28年4月
九州大学総長 久保千春

1. 名称 九州大学基金 平成28年熊本地震被災学生等支援

2. 寄附目的

- ◎学生本人又は保護者が被災し、生活が困難となった学生に対する修学支援
- ◎本学学生が被災地においてボランティア活動を行う際に要する経費の支援
- ◎その他、緊急時における学生の経済的支援

3. 寄附金額 1,000円以上

4. 募金活動期間 平成28年5月～10月(予定)

5. 寄附の方法

- ◎クレジットカード決済によるご寄附
 - ◎金融機関窓口からのご寄附
 - ◎ATM、インターネットバンキングでの振込
- ※寄附にあたっては、寄附目的に「熊本地震学生等支援」とご記入ください。

6. 担当事務 総務部同窓生・基金課



九州大学同窓会連合会総会

平成28年3月3日(木)、伊都キャンパスウエスト1号館にて、全国各地から33名のご出席をいただき、九州大学同窓会連合会総会を開催しました。

会長である九州大学の久保総長の進行により、東海九大の同窓会連合会への入会および役員の選出、平成27年度事業および収支決算(中間報告)ならびに平成28年度事業計画および収支予算(案)等について審議され、承認されました。



懇親会での集合写真



出席者で「松原に」を斉唱

総会に引き続き、昨年11月に開所した亭亭舎にて懇親会を開催しました。船津正明同窓会連合会副会長・文学部同窓会会長(昭和37年・文学部卒)の乾杯ご発声の後、出席者は和やかな雰囲気の中で、各同窓会の近況や今後の展望について語り合いました。

同窓会連合会は、九大グッズの開発やホームカミングデーの実施、伊都キャンパス植樹プロジェクト等を通じて、今後も九州大学と連携し、盛り上げていきたいと考えています。

九州大学同窓会連合会事務局(事務局総務部同窓生・基金課内)

〈連絡先〉TEL:092-802-2156 FAX:092-802-2149 E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

〈関連Webサイト〉<http://doso-rengo.jimu.kyushu-u.ac.jp/>



第4回熊本同窓会

熊本同窓会(中川義朗会長・昭和40年・法学部卒)は、平成27年11月7日(土)に第4回となる総会を開催しました。

当日は、市民公開講座として、九州大学の久保総長に「未来の課題に挑戦する九州大学」の演題でご講演いただき、その後、総会・懇親会を行いました。

総会・懇親会には、九州大学の荒殿理事・副学長、山縣理事、久保秀郎歯学部同窓会会長、伊藤昌司法学部同窓会副会長、大西二史熊本市長にご出



各学部代表による乾杯発声

席いただき、総数162名の参加を得ました。

当同窓会の特徴としては、概ね40代以下で構成される「若手の会」(森野茂会長・平成12年・歯学部卒)があり、懇親会でも活発な活動が見られました。

今回は、若い方が参加しやすいように会費を工夫し、また、市民公開講座の開催告知と合わせてスポットTVC M(90回)を行いました。同窓会によるTVC M放送は珍しく、費用もかかりましたが、会員の皆様のご協賛を得て実現しました。総会後には、熊本地域の経済紙に特集記事が掲載されました。

熊本同窓会は、設立以来、大学本部、同窓会連合会のご支援を賜り活動して参りましたが、地域同窓会として、より多くの同窓生に参加いただくようになお一層努めたいと存じます。

今後とも、九州大学の名に恥じぬように、そしてその名を知らしめるべく活動する所存です。

熊本同窓会事務局長 宮田 房之(平成元年・法学部卒)

〈連絡先〉Email: lawmytfs@orange.ocn.ne.jp



経済学部同窓会全国・関西支部合同総会

平成28年2月20日(土)、平成27年度全国総会および第41回関西支部総会が、阪急ターミナルスクエア・17にて開催されました。心配された雨も上がり、総勢約50名の参加を得て、盛大に行われました。

第1部では、小森田憲繁支部長(昭和46年卒)の挨拶に続き、平成27年度行事報告、平成28年度行事計画・役員案の提示、ならびに平成27年度収支報告がなされ、原案通り承認されました。次に九州大学の磯谷明德経済学研究院長より大学の近況報告、法学部同窓会関西支部の徳永幸彦支部長(昭和35年卒)より、大阪の恩人・五代友厚にちなんだお話をいただきました。

を披露されました。

第2部の講演会では、元関西外国語大学教授の山道茂樹氏(昭和36年卒)が「ギリシアについて」、ご自分の体験談を踏まえ、ギリシアの人、産業、歴史、そして最近の債務危機やユーロ離脱に関する考え方を

第2部の講演会では、元関

西外国語大学教授の山道茂樹氏(昭和36年卒)が「ギリシア

について」、ご自分の体験談を踏まえ、ギリシアの人、産業、

歴史、そして最近の債務危機やユーロ離脱に関する考え方



学生歌唱の場面

経済学部同窓会関西支部事務局長 中野 光男(昭和50年卒)
(連絡先) E-mail: m-nakano@fujiseihan.co.jp



東京九機会総会・懇親会

平成28年3月23日(水)、総会と懇親会を開催しました。東京九機会会は、工学部機械系学科卒業生の関東地区での同窓会です。

工学研究院の森英夫教授をはじめ6名の先生方と九機会会員46名が参加し、意見交換や今後の九大について語り合いました。

また、岸下敬治氏(昭和40年卒)より「超小型ディーゼルエンジン発電機を搭載したレンジエクステンダーEV」について講演していただきました。



懇親会での話らい

参加者の声

近藤 大介 平成18年卒

総会に参加してみても良かった事が2点あります。

1つ目は「共通点のある多様性」です。「九大」「福岡」「機械」のキーワードのおかげでさまざまな職種や年代の方とも意外に盛り上がれます。一度会社に入ってしまうと、個人として他業種の方と交流する機会はありませんので、貴重な時間でした。

2つ目は先生方とお会いできることです。先生と学生という立場を離れて研究のお話等を聴くことができ、学生時代とは違う新鮮さがありました。

東京九機会幹事(広報担当) 岩崎 誠司(昭和63年・工学部卒)

(連絡先) E-mail: iwasaki@kyudai.jp

(関連Webサイト) <http://koyukai.kyushu-u.ac.jp/alumni/179>



在京親和会総会

在京親和会は、工学部化学系の卒業生を中心とする同窓会です。平成28年3月28日(月)、東京都千代田区の三菱クラブにおいて、平成27年度総会を開催しました。13名の先生方、会員82名の参加者が集いました。鈴木龍男会長(昭和49年卒)の挨拶に始まり、三根法興代表学年幹事(昭和59年卒)による運営報告、菊池武利代表学年幹事(平成3年卒)による会計報告、高尾義行会計監事(昭和45年卒)による監査報告と進み、続いて新年度の予算案と役員改選が承認され、滞りなく終了しました。

総会の後、今年度から親和会会長となられた九州大学の南海征治特別主幹教授から、ご挨拶をいただき、引き続き、



梶山千里先生の講演

城野正博副会長(昭和56年卒)の進行のもと、梶山千里元総長による、「ソフトマター個体極表面のレオロジー解析と組織運営の話(おまけ)」と銘付った記念講演が行われました。

その後、中原毅副会長(昭和55年卒)の司会で懇親会に移り、南海会長のご祝辞を頂戴し、竹下道夫会員(昭和48年卒)の音頭で乾杯し、参会者一同旧交をあためながら歓談しました。

杯が進むにつれ、思い思いに談笑、あちこちから歓声が聞かれました。先生方や会員有志から挨拶があり、大いに盛り上がりしました。

橋本和人副会長(昭和59年卒)の挨拶の後、名残を惜しみつつ再会を約束し散会しました。



南海征治先生の挨拶

在京親和会会長 鈴木 龍男(昭和49年卒)

〈連絡先〉在京親和会事務局 〒135-0016東京都江東区東陽5-7-12 睦美マイクロ(株)東京支店内
TEL:03-5690-7275 FAX:03-5690-7276 E-mail:m-nakahara@mutsumi-m.com



歯学部同窓会福岡支部定例総会・懇親会

平成28年4月9日(土)、中洲の博多石焼大阪屋にて、歯学部同窓会福岡支部定例総会・懇親会が開催されました。

総会では、物故者黙祷の後、鎮守信弘支部長(昭和57年卒)が「今年は、九地連(九州地区連合歯科医師会)が福岡で開催されるので、みんなで盛り上げていこう」と挨拶されました。

続いて議長に選出された草苅英男副支部長(昭和62年卒)の議事進行で、各理事による報告および議事が行われ、全て承認可決されました。

その後懇親会が行われ、久保秀郎同窓会会長(昭和58年卒)の乾杯の発声が楽しい宴会の幕開けとなりました。出席者は会員36名、会員外4名、研修医18名の総勢58名を数え、



毎年恒例の研修医紹介

緊張の面持ちだった研修医や若手の先生もお酒が入るにつれ、先輩達と打ち解け、仕事やプライベートなどさまざまな話題で盛り上がりしました。閉会後も、多くの先生達がある春吉方面に向かつて歩き出し、楽しい夜は遅くまで続きました。

歯学部同窓会福岡支部 広報担当理事 小野田 吉史(平成14年卒)

〈連絡先〉歯学部同窓会福岡支部 専務理事 安部 修武(平成元年卒)
TEL:092-608-5240 E-mail:abe@abedc.com



住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

九州大学広報室	TEL:092-802-2130	E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学学生後援会	TEL:092-802-5968	E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学同窓会連合会	TEL:092-802-2158	E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY